

授業の目利き

目指す授業のイメージをもつ

どの学校でも、現職教育として校内研究に取り組んでいます。それは、よい授業ができるようになるためです。授業を変えるためです。そのためには、よい授業の具体的なイメージをはっきりと持っている必要があります。

ところが、困ったことにそれが不明瞭であったり、希薄であったりする場合があります。ときには、方向性が間違っている場合もあります。それもそのはずで、そこそこのよい授業ならともかく、本当によりよい授業には、そう簡単には出合えません。ベテランを含め、本当によりよい授業を見た経験のない人が、今や多数派なのではないでしょうか。

このことは、授業とは音楽や美術、料理のようなものと考えれば、合点がいくでしょう。本物はごくまれにしか存在せず、それに触れることができる機会は多くはありません。本物に出合った経験の有無は、それをつくろうとする人にとっては決定的なことです。

よい授業をつくりたければ、まずはよい授業を探し求め、運よく出会えたならしっかりと味わい、そのイメージを深く焼き付けることが大切です。見たことのない絵、聞いたことのない音楽、食べたことのない料理をつくるのは至難の業です。あなたが作り得るものの質は、あなたが経験したものの質を決して上回ることはないと言われています。

授業の目利きになる

包丁の使い方は下手でもいいかもしれません。練習すれば上手になります。しかし、味のわからない人、味にこだわりのない人は、優れた料理人にはなれません。

授業も同じです。授業を参観します。授業に対する自分の考えを表明します。もし、同僚から違うと言われたら、改めてなぜそう言われるのか考えればいいし、相手に尋ねてもいいでしょう。このような営みの繰り返しの中で、徐々に“授業の目利き”になっていきます。そして、子どもという存在、教育という営みの本質を悟っていくようになります。そのためには、外部に基準を求め、それをもって自分で見ることを、考えることを、判断することを放棄してはいけません。外部の基準の一つが、「授業スタンダード」であり「授業5」「指導5」などです。

したがって、授業を参観する際には複数が望ましいわけです。何人かで同じものを見て、あれこれと話すことが、それぞれの人の、さらには校内におけるよい授業のイメージづくりを促進させることになります。

ちなみに、好みとよさは別物です。あまり自分の好みではないが、授業としてはよい授業だと判断できるようになれば、あなたの目はかなり鍛えられてきたと考えてよいでしょう。

今年度は、「4人組制度」をもとに、互見授業（研究授業参観）を実施してきました。本校の研究構想は、目指す授業像であり、育てたい生徒像でもあります。次年度は、さらにお互いの授業を見る体制づくりや雰囲気づくりを進められればと思います。そして、授業の目利きが増えることを期待しています。